

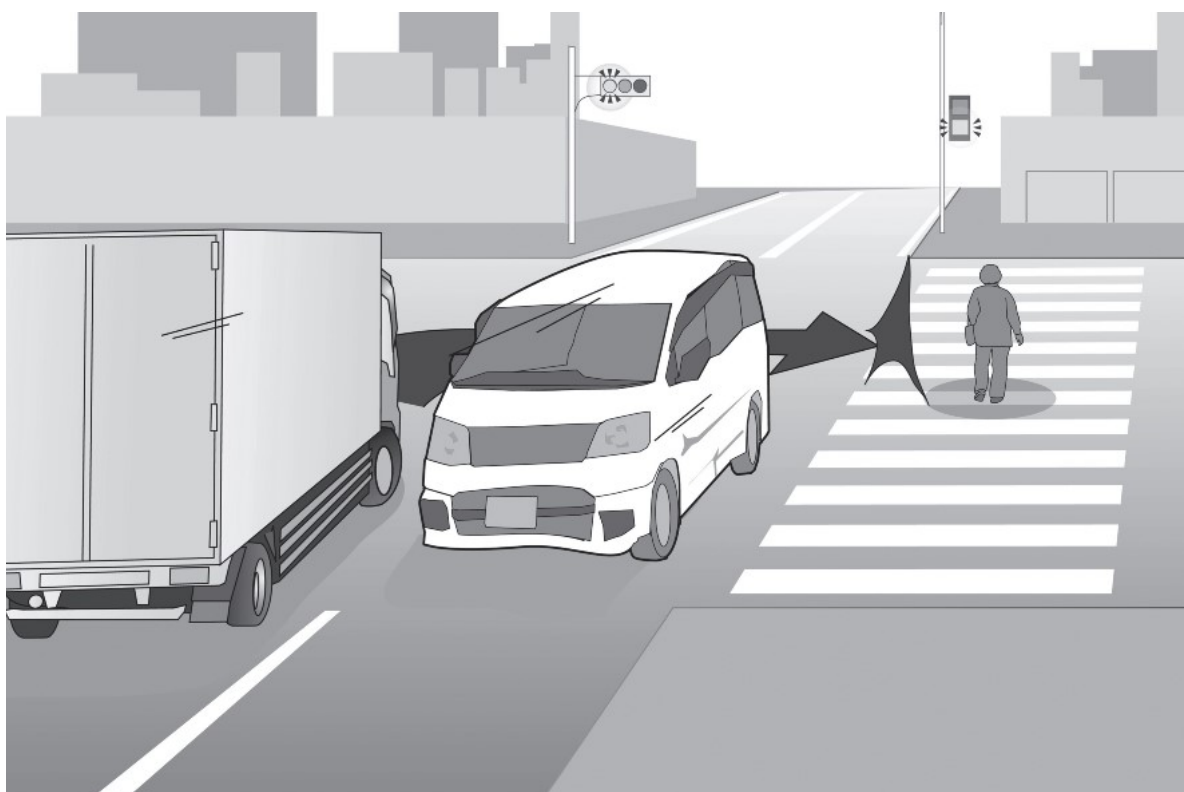
事故に
学び
安全運転に
生かす

事例研究 78

交差点で横断者をはねる

事故の概要

- 発生日時 10月23日（火） 午前10時50分頃 天候 晴れ
- 発生状況 運転者が配達先に向かって走行中、信号交差点で右折しようとしたところ、横断歩道上の相手歩行者をはねて死亡させたもの。
- 事故当事者 男性53歳 相手側 女性71歳
- 事故原因 運転者はその日、2番目の配達先に向かっていました。そして、右折する信号交差点にさしかかったところ、対向するワゴン車が通過していき、それに続く車もいなかったため、止まらずに右折できると判断して、軽くブレーキを踏みながらハンドルを切りました。その時、助手席に置いておいた配達伝票がすべり落ちそうになり、あわてて押えつけたが、一瞬、前方から目をそらしてしまったため、横断歩道上の相手歩行者に気づくのが遅れてしまい、あわてて急ブレーキを踏みましたが間に合いませんでした。



提供：中部交通共済協同組合 安全推進部

被害／損害

71歳女子死亡

総損害額 2,450万円

■被害概要

- ・被害者の職業 主婦
- ・被害状況 外傷性クモ膜下出血などにより死亡。

■損害額内容

・治療費	160万円
・逸失利益	1,060万円
・慰謝料	1,130万円
・葬儀費用	100万円
計	2,450万円

■運転者について

運転免許取り消し（欠格期間1年）の行政処分を受けました。

被害者について

被害者は夫とふたり、平凡な毎日を送るごく普通の主婦でした。この日もいつものように近所のスーパーで昼食のお惣菜を買って、ご主人の待つ自宅へ帰ろうと歩いていたところ、この事故に遭い、帰らぬ人となってしまいました。

被害者はこの事故で頭を強く打ち、外傷性クモ膜下出血などにより即死に近い状態でした。知らせを聞いて駆けつけたご主人も間に合わず、呆然として立ち尽くすだけでした。困った時はいつも奥さんが相談相手であったご主人は、相談する相手を急に失ってしまい、何かしなければいけないことがあるだろうか、どうしたらいいのだろうか、こたえてはくれぬ奥さんに問いかけながら、ただただ涙がほほをつたう毎日を送っており、日ごとに悲しみが増えています。この事故により平凡な毎日を過ごす老夫婦のささやかな幸せが消し飛んでしまったのです。

この事故から学ぶ事

運転者は、信号交差点で対向してくるワゴン車とすれ違った後、それに続く車が見当たらなかったことから、チャンスとばかりに右折を急いでしまいました。その際、助手席に置いた配達伝票がすべり落ちそうになり、あわてて押えようと前方から目をそらしたことが、歩行者の発見を遅らせ、この事故を招いてしまいました。

しかし、この事故の原因は、配達伝票に気がいってしまい、前方から一瞬でも目をそらしてしまったことのみでなく、対向後続車がいなかったことから、一気に右折しようと急いでしまったことにもあります。

今回の事故に限らず、交差点ではあらゆるケースの事故が起こっています。車、自転車、歩行者が交差する場所では、それぞれが複雑に絡み合い、一方向だけの注意では安全を確認することはできません。特に右左折のときなどは急ぎの心は禁物です。必ず一呼吸おいて、まわりを見まわすだけの気持ちの余裕を持ちましょう。

右折先を横断している歩行者は、対向車の陰になったりして見落としがちです。多くの危険が存在する交差点では、運転に集中して、あらゆる危険の発見に努めたいものです。

提供：中部交通共済協同組合 安全推進部